

ポイント!

# レポート

# 論文

を書くための

# 日本語文法

小森万里・三井久美子 [著]

こもりまり・みついくみこ

中上級  
～上級  
学習者対象

こんな悩みを解消!

習った文法をレポート・論文に使いたい!

分かりやすいレポート・論文を書きたい!

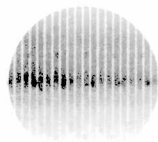
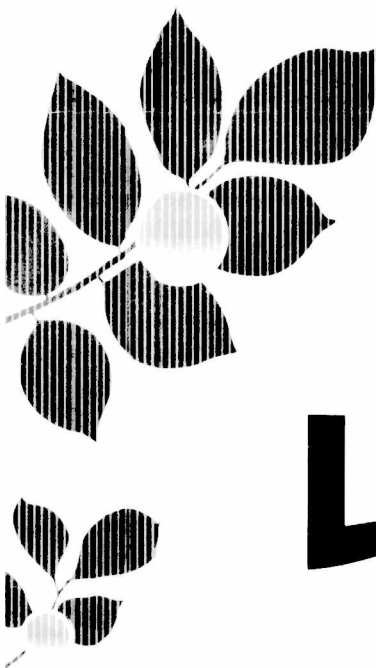
アカデミック・ライティングのための文法を学びたい!

文法用語  
英訳付き



Kurosio くろしお出版



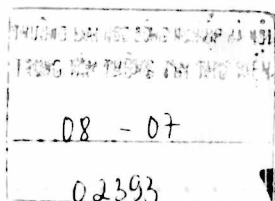


ここがポイント!

# レポート 論文 を書くための 日本語文法

小森万里・三井久美子 [著]

こもりまり・みついくみこ



中上級  
~上級  
学習者対象



くろしお出版



# はじめに

この本は、日本の大学や大学院で勉強している日本語学習者が、日本語でレポートや論文を書くために必要な日本語文法を学ぶ本です。

学習者のみなさんは、レポートや論文を書く時に、「『は』と『が』はどうやって使い分ければいいのだろう?」、「レポートは受身形をよく使うと聞くけど、どこで使えばいいのだろう?」等、すでに勉強したはずの文法の使い方がわからなくなることがありませんか。一方、日本語教師のみなさまは、学習者のレポートや論文を添削していて、「何度も同じ文法の誤りを指摘しているのに、なかなか修正されない」、「この文法を使うのは不自然だけれど、どう説明したらいいだろうか」と思われたりすることもあるでしょう。そこで、学習者のみなさんが独学でも勉強でき、また、教師のみなさまがアカデミック・ライティングの授業でも使えるような「レポート・論文を書くための日本語文法」の教材を作成したいと思ったのが、この教材の出発点です。

本書の特長は以下のような点です。

- ・ 本書は日本語能力試験 N2 程度以上の学習者を対象に作成しています。
- ・ 日本語学習者がレポートや論文を書く際に誤りやすい文法項目を扱っています。
- ・ 全14課のうち、前半(1~7課)は単一文レベルでの使い方に関わる文法項目を扱い、後半(8~14課)は談話レベルでの使い方に関わる文法項目を扱っています。
- ・ 学習者によくある誤りを、各課の冒頭でレポート形式の例文の中に提示し、誤りの意識化を促しています(例は、すべて作例です)。
- ・ 各文法項目の学習によってレポートや論文で何ができるようになるのか、また、それらが実際にレポートや論文でどのように使用されるかが、明記されています。
- ・ 学習者が興味を持てるような現代日本の社会的・文化的テーマに関する例文や練習問題になっています。
- ・ 実際のレポートや論文での使い方がわかるような形式の練習ができるようになっています。

本書をお使いいただくことによって、学習者のみなさんにとってレポートや論文作成のための日本語文法が理解しやすくなり、また、教師のみなさまにとっては、効果的なライティング指導の一助となれば幸いです。

本書作成にあたり、終始貴重な助言を賜りました筒井佐代先生(大阪大学)に感謝の意を表します。ヴォーゲ・ヨーラン先生(神戸女学院大学)には、本書の主旨をご理解いただき、タイトなスケジュールの中、適切な翻訳をしていただきました。また、田山博子先生には立命館大学と佛教大学で、辻恵子先生には立命館大学で本書試作版を実際にお使いいただき、多くの示唆をいただきました。ここに感謝いたします。そして、本書試作版を使い、学習者としての率直な意見をくださった大阪大学、立命館大学、佛教大学の留学生のみなさまにも心より感謝申し上げます。最後に、私たちの本書作成への思いをご理解くださり、多くの方に使っていただける教材になるようともに考え続けてくださったくろしお出版の市川麻里子さん、坂本麻美さんにお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

2016年10月

小森万里・三井久美子

# 目次

はじめに i

この本の使い方(学習者のみなさまへ) iv

この本の使い方(教師のみなさまへ) vi

実力試しテスト ix  
しつりよくため

第1課	書き言葉に統一する	1
たい	か	
	か こと は どういつ	
	書き言葉の文体と表現	Q&A ① 8
	か こと は ぶんたい ひょうげん	
第2課	文の意味を明確にする	9
たい	か	
	ぶん い み めいかく	
	複文の適切な使い方	Q&A ② 17
	ふくぶん てきせつ つか かた	
第3課	「こと」と「の」を使い分ける	18
たい	か	
	つか わ	
	名詞節「こと」と「の」の使い分け	Q&A ③ 25
	めいしせつ つか わ	
第4課	文をシンプルにする	26
たい	か	
	ぶん	
	語や節の名詞化	Q&A ④ 32
	ご せつ めいし か	
第5課	語彙を適切に選択する	33
たい	か	
	ごい てきせつ せんたく	
	レポート・論文でよく使う語彙の使い分け	Q&A ⑤ 40
	るんぶん つか ごい つか わ	
第6課	文を首尾一貫させる	41
たい	か	
	ぶん しゅび いっかん	
	文頭と文末との呼応	
	ぶんどう ぶんまつ こおう	

第7課 たい	形 <small>か</small> が似 <small>に</small> ている表現 <small>ひょうげん</small> を使い <small>つか</small> 分 <small>わ</small> ける	48
	助詞相当語 <small>じょし そうとうご</small> の使い分け	Q&A ⑥ 56
第8課 たい	「は」と「が」を使い <small>つか</small> 分 <small>わ</small> ける	57
	助詞「は」と「が」の使い分け	
第9課 たい	書き手 <small>か</small> の視点 <small>て</small> を示 <small>し</small> め	66
	他動詞・自動詞 <small>たどうし じどうし</small> （使役形・受身形 <small>しえきけい うけみけい</small> ）	Q&A ⑦ 74
第10課 たい	過去 <small>かこ</small> と現在 <small>げんざい</small> のつな <small>しめ</small> がりを示 <small>し</small> す	76
	ル形・夕形・テイル形 <small>けい</small> ・テイタ形 <small>けい</small>	Q&A ⑧ 84
第11課 たい	文章 <small>ぶんしょう</small> の中 <small>なか</small> の語 <small>ことば</small> を指 <small>さ</small> し示 <small>しめ</small> す	86
	指示詞「こ」と「そ」の使い分け	
第12課 たい	前後 <small>ぜんご</small> の関 <small>かん</small> 係 <small>けい</small> を表 <small>あらわ</small> す	95
	接続詞・接続表現 <small>せつぞくし せつぞくひょうげん</small> の使い分け	
第13課 たい	前 <small>まえ</small> の文 <small>ぶん</small> に関 <small>かん</small> 係 <small>けい</small> づける	106
	「のだ文」の使い方	
第14課 たい	効果 <small>こうか</small> 的に意見 <small>いけん</small> を述 <small>の</small> べる	113
	意見を述べる文末表現 <small>いけん の ぶんまつひょうげん</small> の使い分け	

用語説明 125

索引 138

提出課順リスト 141

参考文献 143


# この本の使い方 (学習者のみなさんへ)

ほん つか かた がくしゅうしゃ

## 独学での使い方

どくがく つか かた

- ① 文法説明と例文があるので、説明を読んでから練習問題にチャレンジする、という形で一人でも勉強することができます。
- ② 「さらに練習したい人のために」以外の練習問題は、すべて解答や解説がついているので、理解できたかどうかを自分で確認することができます。
- ③ 各課が独立しているので、好きな課から勉強を始めることができます。
- ④ レポートや論文を書く時、文法の辞書のように使うことができます。「この文法はどう使えばいいのかな？」とわからない時には、その文法を扱っているページの文法説明を読みましょう。
- ⑤ 巻末に、文法用語の説明と例文が載っているなので、わからない時は調べてみましょう。

活動	ねらい	内容
各課のタイトル	文法項目を選ぼう	レポートや論文の中でどんなことをしたいのか(どんな働きを持つ文法を勉強したいのか)が、タイトルからわかるようになっています。
↓		
TRY : まず、やってみよう	誤りやすい点は何かを知ろう	その課で勉強する文法項目について、みなさんが誤りやすい点を示しています。できなかった問題は、各問題の下に「⇒ステップ1」と書いてあればステップ1を、「⇒ステップ2」と書いてあればステップ2を見てください。それぞれのステップに詳しい説明と練習問題があります。
↓		
POINT : ここがポイント	文法のポイントを知ろう	その課の文法項目が文章の中でどのような働きを持っているのかが書かれています。
↓		
▶ステップ1	基本的な使い方を勉強しよう	その課の文法項目の基本的知識が勉強できます。易しければステップ1はとばして、ステップ2に進みましょう。
↓		
▶▶ステップ2	応用的な使い方を勉強しよう	ステップ1を踏まえてさらに注意すべきことや、長い文章になった時の注意点など、応用的な使い方が勉強できます。
↓		
注意 	例外や間違えやすい点を知ろう	ステップ1、ステップ2での文法説明の中で、例外等、気をつけなければならないことについて勉強できます。
↓		



<b>レポート・論文で 実際にどう使う？</b> じつさい つか	<b>レポート・論文の中 での使い方を知らう</b> つか かた し	ステップ1、ステップ2で学習した項目は、レポートや論文の中のどこでどのように使用されることが多いか、どのような目的で使えばよいかわかります。
↓		
<b>実践： 使ってみよう</b> つか	<b>実践練習しよう</b> じっせんれんしゅう	レポートや論文の文章で、その課の文法項目を使ってみる練習をします。本当に文法が使えるようになったか、確認してみましょう。
↓		
<b>さらに： 練習したい人の ために</b>	<b>実際に書いてみよう</b> じつさい が	実際にレポートや論文の形で書いてみたい人は、挑戦してみましょう。トピックは自分の好きなものに変えてもいいです。書いたら、日本語の先生や日本人の友だちに読んでもらい、正しく、わかりやすい文章になっているか、見てもらいましょう。
↓		
<b>Q &amp; A</b>	<b>よくある質問</b> じつもん	各課の文法について、学生のみなさんからよく出る質問が載っています。知っておくと便利な情報が入っています。

## 実力試しテストの使い方

じつりょくたため つか かた

この本の最初に、「実力試しテスト」がっています。

まず、この本での勉強を始める前に、このテストをやってみてください。レポートや論文を書く時に、間違えやすい文法が問題になっています。各問題の後ろに課が書いてありますから、苦手な課から勉強を始めることもできます。

この本での勉強がすべて終わったら、もう一度「実力試しテスト」をやってみてください。この本を勉強する前よりどのぐらい点数が伸びたかを自分で確認しましょう。また、苦手な課があれば、もう一度復習しましょう。

## 用語説明

ようご せつめい

本文中に\*印が付いている文法用語がわからない時は、巻末の「用語説明」を見てください。それぞれの文法用語が、日本語と英語で説明されています。

## 解答・解説（別冊）

かいとう かいせつ べつさつ

別冊には、各課の練習問題の解答・解答例や解説が載っています。

# この本の使い方（教師のみなさまへ）

## 授業での使い方

- ① アカデミック・ライティングの授業や、アカデミック・ライティングのための文法の授業で使うことができます。
- ② レポートや論文に必要な文法項目の中で、特に学習者が誤りやすいものを集め、その文法をどんな目的で使用できるかを示すことができます。
- ③ 14 課構成なので、大学の授業(セメスター制の半期、ターム制の2ターム)で主要教材として使うことができます。
- ④ 各課が2つのステップに分かれているので、ステップ1を宿題(予習)にして、ステップ2を授業で扱うという方法をとることができます。
- ⑤ まず課全体を学習者に予習させておき、授業では学習者が疑問に思った点を取り上げて指導することもできます。
- ⑥ 学習者の苦手な課だけを選んで、補助教材として使うこともできます。
- ⑦ 1 文レベルでの練習問題は少なくし、なるべく実践的に使えるようになるよう、談話レベルでの練習問題や、レポート・論文の型に沿った練習問題になっています。
- ⑧ 各課末にその課で学んだ文法項目を実践できるような課題があるので、実際に課題を書かしてみると、効果的です。

授業では、以下の順序で扱っていただくとよいでしょう。1 課を1 コマ 90 分の授業で行う際の、時間の目安を示します。

活動	ねらい	内容
各課のタイトル	どんな文法を扱うかを選ぶ	レポートや論文の中でどのような言語行動をしたいのか(どのような目的を果たすための文法が勉強できるのか)が、タイトルからわかるようになっています。
↓		
TRY : まず、やってみよう [10分]	誤りやすい点を意識化する	その課で勉強する文法項目について、学習者が誤りやすい点を、レポート調の文章の中で示しています。各問題の下に「⇒ステップ1」と表示があれば、ステップ1に詳しい説明と練習問題があることがわかります。
↓		
POINT : ここがポイント [5分]	文法項目のポイントを知る	その課でどんな文法項目を勉強するのか、その文法項目は、文章の中でどのような機能を果たすのか、というポイントが書かれています。このポイントを念頭にステップ1、ステップ2と学習していけば、押さえておくべき重要ポイントが意識化できます。